



は、忘れた頃にやってくる！



9月1日は「防災の日」、
8月30日から9月5日は「防災週間」です。

1923年（大正12年）9月1日11時58分。今から103年前、未曾有の大災害である「関東大震災」は起きました。

この地震により、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県で震度6を観測したほか、北海道道南から中国・四国地方にかけての広い範囲で震度5から震度1を観測し、10万棟を超える家屋が倒壊しました。また、発生が昼食の時間と重なったことから、多くの火災が発生。この地震によって全半壊・消失・流出・埋没の被害を受けた家屋は総計37万棟に上り、死者・行方不明者は約10万5千人に及ぶなど、甚大な被害をもたらしました。

また、1959（昭和34）年9月26日、18時過ぎに和歌山県潮岬に上陸し、21時半頃愛知県名古屋市の西側を通過した「伊勢湾台風」。東海地方を中心に戦後最大の被害（死者・行方不明者が全国36道府県にわたって5098人）に達する大災害を引き起こしました。

これらの大災害を機に、災害

に対する心構えなどを育成するため、1960（昭和35）年6月11日に「防災の日」は制定されました。また9月1日は、暦の上では「二百十日（※1）」に当たり、古来より台風襲来の時期とされてきました。

そして、1982（昭和57）年からは、防災の日を含む8月30日から9月5日の一週間を「防災週間」と定め、各関係機関が緊密な協力関係のもとに、防災思想普及のための行事や訓練などを行っています。

町でも、毎年8月最終日曜日に防災講演会を、10月第3日曜日に町内全域で総合防災訓練を行うなど、地域全体の防災力向上に努めています。しかし、天災は、忘れた頃にやってきます。今年の6月には、3つもの台風が立て続けに上陸しました。特に台風7号の影響による大雨が降る中、22時30分頃に地震が発生。町では、震度4を観測するなど、複数の災害が重なる事態となりました。幸いにも町では大きな被害につながることはありませんでしたが、「いつ・ど

こで・どんな規模の災害が起るかわからない」ことを、改めて強く感じた瞬間でした。

また今回は、6月26日から27日にかけて「自主避難所」を相和小学校に開設しました。しかし、「自主避難所」と聞いても、具体的にどのような場所か、どのように利用するのか、ぴんときない方も多かったのではないのでしょうか。

避難所とは、災害による被害を受けた人または被害を受ける可能性がある人が、一定の期間避難生活をする場所のことを言います。万が一の時に、ご自身や大切な家族の命を守るためにも、避難所について正しく理解しておくことは非常に重要です。今回は、「『避難所』はどうなってるの？」「何を持ち込めばいいの？」「いつ行けばいいの？」という疑問を解決していきます！

（※1）二百十日
にひゃくとっか

立春から数えて210日目の日のこと。稲の開花期にあたり、台風がよく来るので厄日とされている。（NHK文化放送研究所）

【参考文献】

- ・政府広報オンライン
- ・内閣府防災情報のページ



避難所は、
いつ・どこに
行けばいいの？

まず初めに、**避難所に行くことだけが避難ではありません。**

町の指定避難所への避難のほか、安全な場所にある親戚・知人宅、旅館・ホテルへの避難なども考えられます。また、ハザードマップ（※2）などで自宅が安全だと判断できる場合は、自宅に留まること（屋内安全確保）も考えてみましょう。つまり、「**安全な場所**」に行くこと（**留まること**）が重要です。

風水害の避難のタイミングは、「**レベル3**」と「**レベル4**」です。「レベル5」を待たずに「**レベル4**」で**全員避難**しましょう。（※3の表参照）地震の避難のタイミングは、**自宅の損壊が大きいときや倒壊するおそれがあるとき**です。揺れがおさまった後、避難所へ行くことを検討してください。

(※2) ハザードマップ
土砂災害の警戒区域や洪水の浸水想定区域、避難所などの情報を掲載した町の地図。
詳細は、下の二次元コードからご確認ください。



の5カ所です。日頃から、ハザードマップ(※2)を確認し、避難所の場所を把握しておきましょう。

- 町の指定避難所は、
- ・大井小学校体育
 - (根岸上・根岸下・市場・新宿・河原・金手の方)
 - ・大井町総合体育館
 - (坊村・馬場・吉原の方)
 - ・湘光中学校体育館
 - (宮地・上大井・西大井の一部の方)
 - ・上大井小学校体育館
 - (西大井の方)
 - ※風水害時は、湘光中学校・相和小学校体育館
 - (篠窪・上山田・中屋敷・下山田・柳・高尾・赤田地区の方)

(※3) 気象台から発表される気象の警報

	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
警戒レベル5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
＜警戒レベル4までに必ず避難＞				
警戒レベル4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
警戒レベル3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
警戒レベル2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
警戒レベル1	早期注意情報			

避難所って衣食住揃ってるんでしょ？そんなお声をよく聞きます。町は「大災害や局地的な災害」に備えて、防災コンテナや防災備蓄倉庫にさまざまなものを備蓄しています。食糧でいえば、神奈川県西部地震の想定する発災1日後の避難者数は約680人ですが、熊本県益城町では、熊本地震の避難者の割合が全町民の約7%であった実態を考慮し、大井町においては町の約1割の1700人を避難者数として設定しています。この人数が避難所に避難することを想定し、避難者に対しては3日分、帰宅困難者(1日程度の滞在)に対しては1日分、合計約2万5千食を備蓄しています。

しかし発災当初は、スムーズなサポートが受けられない可能性もあります。そのため、**避難所での生活に必要な食料や生活物資は、基本的に(可能な範囲で)自ら持ち込む必要があります。**災害発生から数日間は物資の支援が届かないことも想定し、最低限の「非常持ち出し袋」を両手が空くりユックにまとめて準備し、持ち込むようにしましょう。

**避難所には、何を
持って行ったらいいの？**





**避難所の中って
どうなってるの？**



町では、風水害の際は、横浜地方気象台からの気象情報を基に、気象台と連携・相談を行い、警戒レベル情報を発令します。特に、警戒レベル4以上の警戒が出た際には、町民の皆さんへ、避難所やそのほか安全な場所に避難する必要がある「避難指示」を出します。

「避難指示」が出た際、自宅での屋内安全確保が可能であればそれに越したことはありません。しかし、そうではないとき、町の指定避難所などへの避難が必要になります。

いざという時に皆さんが安心して利用できるよう、町の避難所内について解説します。

▼警戒レベル3～4相当 数時間～1日など、一時的に避難する場合

■準備されているもの

- ・エアーマット
- ・毛布
- ・パイプイス

上記を1セットとして、3セット程度を町で用意します。以降、避難される方々が増えるごとに、職員と避難された皆さん全員で準備を行います。エアーマットは720個、毛布は1,700枚、準備があります。



エアーマットは、成人男性が十分に横になれる大きさです。枕機能もついており、快適に寝ることができます。



空気入れを使って膨らまします。



こんなものもあります💡

災害時用パーテーション



避難所でのプライバシーと生活空間の確保、レイアウトや避難者のグループ分け設定に用います。

停電時などに照明として使用します。

LED 照明



▼警戒レベル4～5相当 数日間の避難を要する場合

■準備されているもの

- ・シェルターテント
- ・ワンタッチ災害用ベッド
- ・エアーマット
- ・毛布

上記を1セットとして、3セット程度を町で用意しています。

以降、避難される方々が増えるごとに、職員と避難された皆さん全員で準備を行います。

シェルターテントは60個（県貸与）、ワンタッチ災害用ベッドは23個（県貸与）、準備があります。



シェルターテントの中は、ワンタッチ災害用ベッドが2つ余裕で入ります。だいたい3畳ほどの広さです。



災害用ベッドは、ワンタッチで簡単に組み立てることができます。

こんなものもあります💡



着替えや授乳ができる空間を確保できたり、イスや机を入れて相談スペースにしたりできます。個室としての利用だけでなく複数の方での同時利用が可能です。





**実際に避難所などを
体験できる場所ってあるの？**

いつ、どのタイミングで避難すればよいか、何を持ち込むべきか、ここまでお話ししてきましたが、災害から私たち自身や大切な人の命を守るためには、正確な知識と事前の準備が欠かせません。そして、その知識を「知っている」だけでなく、「実際にどう行動するか」という実践的な力へと変えることが重要です。

そこで、皆さんの防災力をさらに高めるために、見る！学ぶ！食べる！いろいろな防災を体験することができ、**「防災フェスティバル」**を10月18日(日)におお中央公園で開催します。

防災関連団体展示エリアや働くクルマの展示、ドローン操縦体験、火災時の煙体験ハウス、倒壊家屋救出救助の訓練展示エリア、自衛隊によるカレーライス炊き出しエリアなど、さまざまなイベントが行われます。詳細は、町公式Instagramやホームページで随時お知らせしていきます！皆様のお越しをお待ちしています。

そして、災害への備えは、目に見えるものばかりではありません。避難所での生活において、多くの人が直面する大きな課題の一つが「トイレ」の問題です。不衛生な環境やプライバシーの確保が難しいトイレは、身体的な健康だけでなく、精神的なストレスにも繋がります、避難生活の質を大きく左右します。

この見過ごされやすい重要なテーマについて、**「防災講演会」**を開催します。災害時のトイレの重要性から、個人でできる備え、避難所での工夫まで、具体的な知識と実践方法を学ぶ貴重な機会です。こちらもふるってご参加ください。

避難所自体については、分かったけれど、
そのトイレが使えなかったら？
災害時、トイレはどうしたらいいの？

そんなあなたには、この講演会がおすすめ！
災害時のトイレの不安、これで解決できます！



大井町防災講演会 災害時のトイレ対策

- 日時 8月30日(日)
14時～15時30分(開場:13時30分)
- 内容 災害時のトイレ対策
- 講師 特定非営利活動法人日本トイレ研究所
代表理事 加藤 篤かとう あつし
- 場所 生涯学習センター・ホール
- 定員 200人(先着順)
- 申し込み方法 右上の二次元コードからお申し込みください。
電話またはFAXの方は、代表者氏名、連絡先、参加人数を防災安全課までご連絡ください。
※手話通訳をご希望の方はその旨を合わせてお伝えください。



加藤篤さん

